

わが街熊谷遺跡めぐり 弥生時代の石器

1. はじめに

弥生時代^{やよいしだい}とは、稲作^{いなさく}が始まった時代であり、現在の私たちの食生活の基本形が成立した時代です。また大陸から金属器なども伝わり、利器^{りき}の革新^{かくしん}が始まった時代でもあります。しかし、金属器が一般的に広まるのは古墳時代^{こふんじだい}以降のことであり、弥生人^{じょうもんじだい}たちは縄文時代から引き継いだ打製石器^{たせいせっき}のほかに大陸から伝わった磨製石器^{ませいせっき}などを使用して生活していました。

現在、市内では弥生時代の遺跡は、23箇所確認されています（第1図）。時期は前期末^{ぜんきまつ}（約2,200年前）から後期後半^{こうきこうはん}（約1,700年前）までです。遺跡からは、さまざまな石器が出土しており、主に農具^{のうぐ}、狩猟具^{しゅりょうぐ}、工具^{こうぐ}、調理具^{ちょうりぐ}、祭祀具^{さいしぐ}などに分類されます。

石器は当時の暮らしぶりを知る上で、重要な情報を教えてください。今回の展示では、市内に所在する弥生時代の遺跡から出土した石器についてご紹介いたします。



第1図 熊谷市内の弥生時代遺跡分布図

2. 農具（石鍬）^{いしくわ}

石鍬は、短冊形^{たんさく}、撥形^{ばち}、分銅形^{ぶんどう}、有肩形^{ゆうけん}などさまざまな形のものがあります。全長20cm前後を測る大型のものが多くみられますが、これは遺跡が固い粘土層に立地することからより効率よく掘るために大型化したと考えられます。主な石材は粘板岩^{ねんばんがん}とホルンフェルスです。石鍬は棒状の木材先端にひもでくくりつけられ、土を耕す道具として使用されま

した。縄文時代から認められる打製石斧とも呼ばれています。



前中西遺跡V3号住出土。



前中西遺跡IV16号住出土。
石鍬(打製石斧)



前中西遺跡VII7号住出土。

参考



現代の鍬

3. 狩猟具(石鏃)

石鏃は、打製と磨製があります。打製は基部に茎を持つものと持たないものがあります。磨製は茎を持たず、矢にひもでくくりつけるための孔が設けられています。いずれも小型であることから小動物などを狩る際、矢の先に取り付けられ、使用されたと考えられます。打製は地元で製作され、磨製は磨製石斧とともに長野県北部地域からもたらされたと考えられます。



前中西遺跡VI1号方形周溝墓出土。

打製石鏃



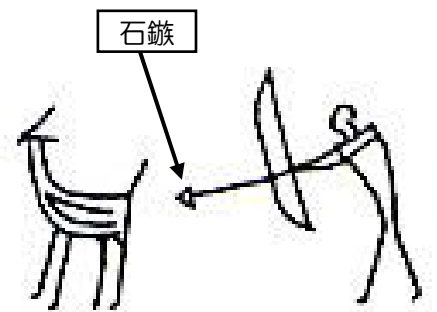
前中西遺跡VIII11号住出土。

磨製石鏃



前中西遺跡II1号住出土。

磨製石鏃



石鏃の使用法

絵画:兵庫県神戸市桜ヶ丘5号銅鐸

4. 工具(磨製石斧・砥石)

磨製石斧には太形蛤刃石斧と扁平片刃石斧があります。石材は緑色岩で長野県北部地域からもたらされたと考えられます。太形蛤刃石斧は、加工した棒状の木材に装着され、伐採の道具として使用されました。最も大きいものは全長21.3cmを測り、県内では朝霞市新屋敷遺跡出土例と並び、最大級の大きさです。扁平片刃石斧は、木材を削るなど細部を加工する道具とし

て使用されました。砥石は、石斧などの刃部^{じんぶと}を研ぐ道具として使用されました。



前中西遺跡 VII4号住出土。 前中西遺跡 VII遺構外出土。 前中西遺跡 II5号住出土。 横間栗遺跡 2号再葬墓出土。 前中西遺跡VII1号住出土。
 ふとがたはまぐりばせき ふ 太形蛤刃石斧
 へんぺいかたばせき ふ 扁平片刃石斧
 といし 砥石

5. 調理具 (石皿・凹石・敲石・磨石・搔器)

石皿・凹石と敲石・磨石は、植物質食料を粉碎^{ふんさい}する際にセットで使用されました。磨石には光沢^{こうたく}が出るまで使用されたものもみられます。

搔器は、皮なめしや獣の肉を切ったりするなど多目的に使用されたと考えられます。



飯塚遺跡出土。 前中西遺跡VII1号住出土。 前中西遺跡VI1号住出土。
 いしざら 石皿
 くぼみいし 凹石
 へんぺいすりいし 扁平磨石



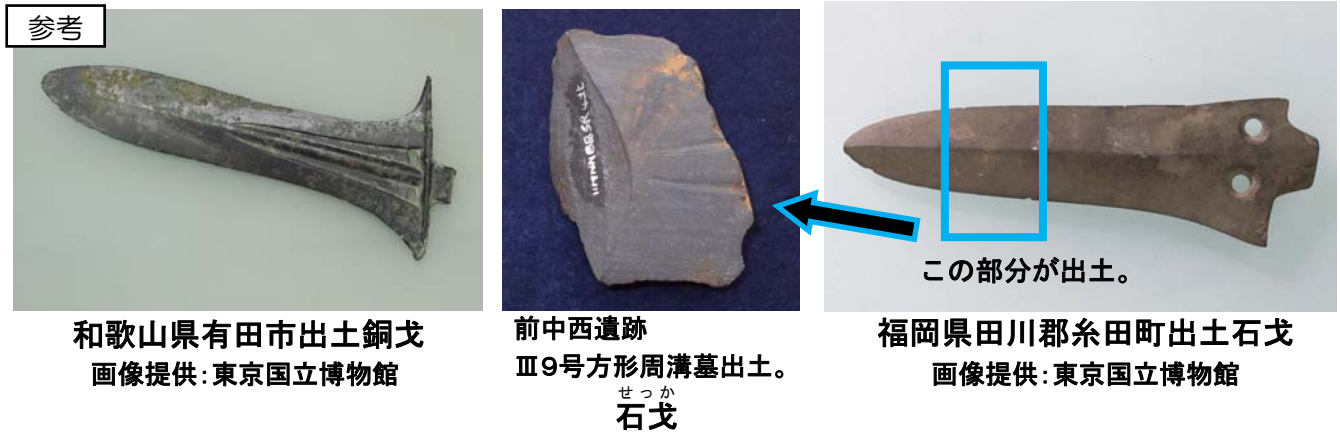
前中西遺跡 VII10号住出土。 前中西遺跡 VII8号住出土。 前中西遺跡VII4号住出土。
 たたきいし 敲石
 すりいし 磨石
 そうき 搔器



いしざら すりいし 石皿・磨石の使用方法
 画像提供: 嵐山町教育委員会

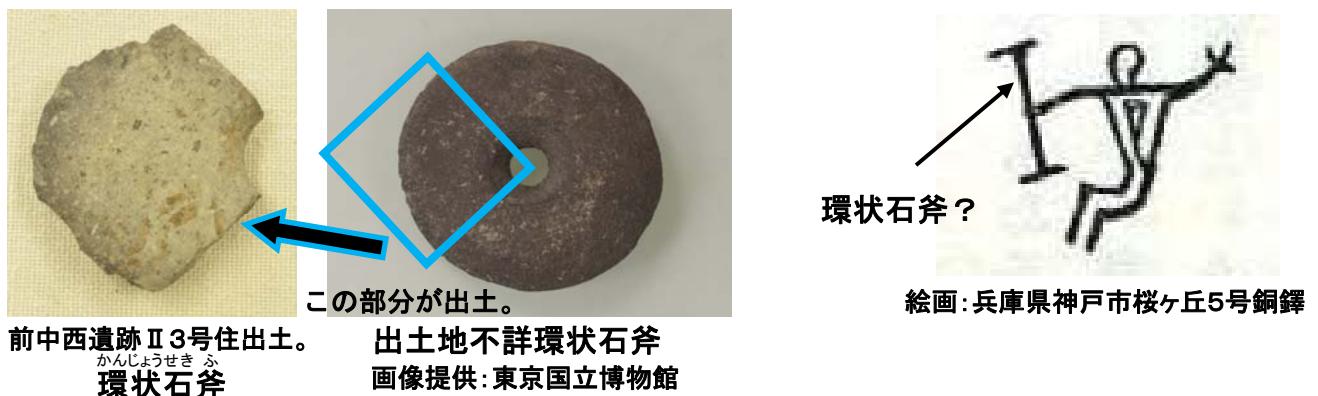
6. 祭祀具（石戈）^{せっか}

見つかった石戈は刃部の一部です。石材は粘板岩です。銅戈を模倣して製作されたもので長野県北部地域からもたらされたと考えられます。刃部を欠く状態は、長野県北部地域出土の石戈と同じであり、何らかの儀式の際に刃部を故意に折ったと考えられます。県内では唯一の出土例です。



7. その他（環状石斧）^{かんじょうせきふ}

環状石斧とは、円盤中央に孔が設けられ、周縁に刃が形成された石器です。棒状の木材を中央の孔に装着して使用されたと考えられています。用途は土掘り具、あるいは戦闘用の武器など諸説ありますが、現時点では1つに限定するのは難しい状況です。



平成 26 年 5 月 16 日 発行

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会 社会教育課 文化財保護係）

— わが街熊谷遺跡めぐり — 弥生時代の石器 テーマ展解説書 第 17 集